

第43回 医療情報学連合大会 HELICS チュートリアル報告 ～「JAHISにおける 標準化への取り組み」の紹介～

運営幹事（標準化推進部会担当）
国内標準化委員会 委員長
(キヤノンメディカルシステムズ株)

た な か と し お
田中 利夫

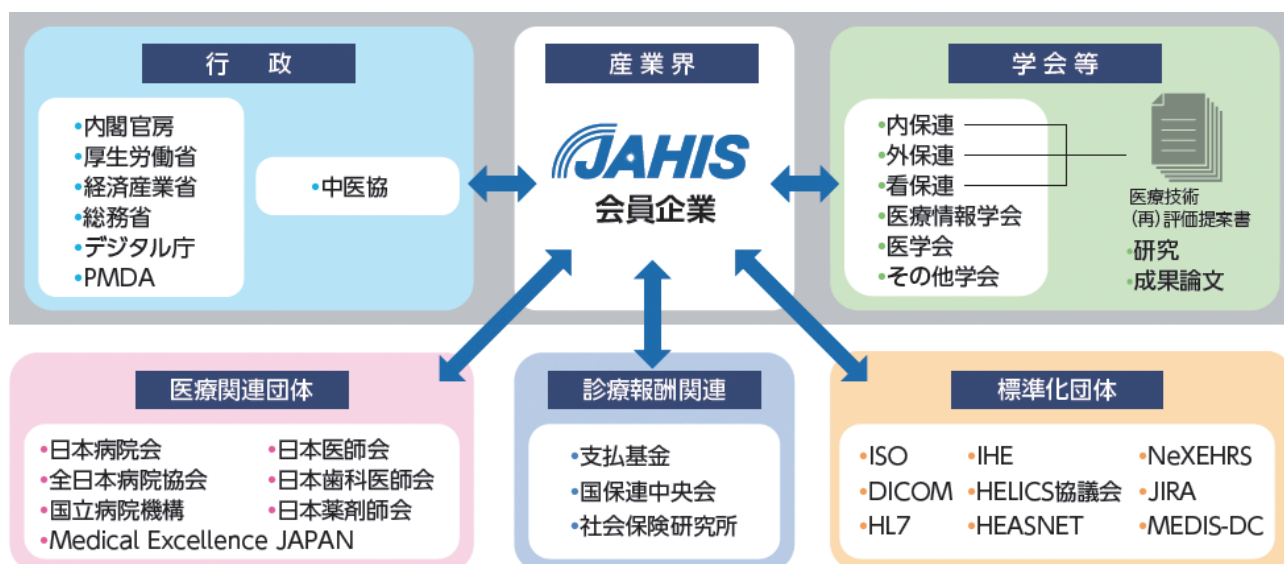


第43回医療情報学連合大会が2023年11月22日～25日に神戸ファッションマートを会場として開催されました。11月22日に医療情報標準化推進協議会（HELICS協議会）主催のチュートリアルがあり、(1) HELICS協議会、(2) JAMI、(3) JIRA、(4) JAHIS、(5) GS1 Japan、(6) IHE-Jの6団体が、標準化活動への取り組みの紹介を行いました。チュートリアルの概要は以下の通りです。

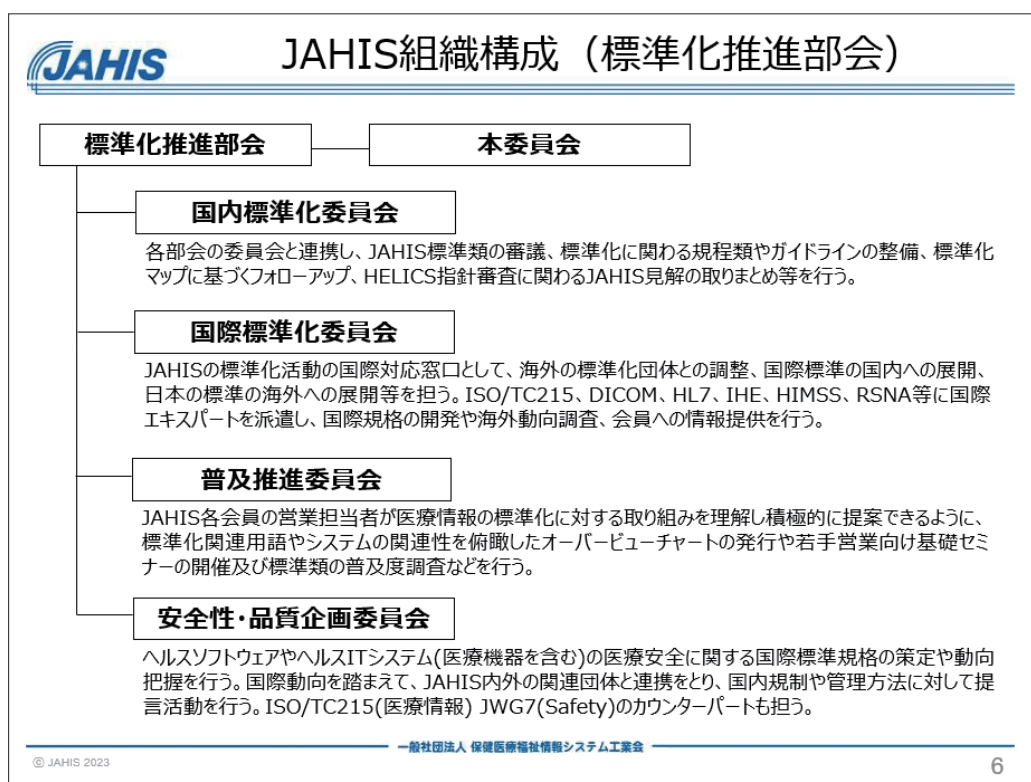
開催日時	2023年11月22日（水） 13時00分 ～ 14時30分													
開催会場	神戸ファッションマート B会場（Web配信あり）													
テ ー マ	HELICS協議会チュートリアル ～会員各団体の標準化への取り組み紹介～													
座 長	江本 豊（HELICS協議会 広報委員会委員長）													
概 要	医療情報標準化推進協議会（HELICS協議会）は、2001年に設立されました。主な活動は、医療情報システムで扱う患者情報などを電子的に交換するための方法、コードや保存形式について、我が国の医療情報分野に適用し利用することが望ましい標準規格を評価審査することです。利用分野ごとで使用すべき標準規格を推奨し、指針を定め、医療情報標準化レポートを提供しています。 HELICS協議会は「標準に関する関係者合意を形成しうる団体」として選定されており、採択された指針のなかから、厚生労働省の保健医療情報標準化会議の審査を経て、厚労省標準規格が定められます。現在26の厚労省標準規格があります。 HELICS協議会は2023年現在、12の団体が会員となっています。本チュートリアルでは、その中から6つの会員団体の医療情報標準化への取り組みの最新状況を解説します。 <プログラム> <table><tr><td>1) HELICS協議会の取り組み</td><td>岡田 美保子（HELICS）</td></tr><tr><td>2) 日本医療情報学会の取り組み</td><td>山下 貴範（JAMI）</td></tr><tr><td>3) 日本画像医療システム工業会の取り組み</td><td>鈴木 真人（JIRA）</td></tr><tr><td>4) 保健医療福祉情報システム工業会の取り組み</td><td>田中 利夫（JAHIS）</td></tr><tr><td>5) GS1 Japan（流通システム開発センター）の取り組み</td><td>上野 善裕（GS1 Japan）</td></tr><tr><td>6) 日本HL7協会の取り組み</td><td>檀原 一之（HL7-J）</td></tr></table>		1) HELICS協議会の取り組み	岡田 美保子（HELICS）	2) 日本医療情報学会の取り組み	山下 貴範（JAMI）	3) 日本画像医療システム工業会の取り組み	鈴木 真人（JIRA）	4) 保健医療福祉情報システム工業会の取り組み	田中 利夫（JAHIS）	5) GS1 Japan（流通システム開発センター）の取り組み	上野 善裕（GS1 Japan）	6) 日本HL7協会の取り組み	檀原 一之（HL7-J）
1) HELICS協議会の取り組み	岡田 美保子（HELICS）													
2) 日本医療情報学会の取り組み	山下 貴範（JAMI）													
3) 日本画像医療システム工業会の取り組み	鈴木 真人（JIRA）													
4) 保健医療福祉情報システム工業会の取り組み	田中 利夫（JAHIS）													
5) GS1 Japan（流通システム開発センター）の取り組み	上野 善裕（GS1 Japan）													
6) 日本HL7協会の取り組み	檀原 一之（HL7-J）													

以下、筆者が紹介した「JAHISにおける標準化への取り組み」の概要についてご報告します。

はじめに、JAHISは1994年4月に設立された工業会であり、保健・医療・福祉の各分野における情報システムや医療機器の事業者等、ヘルスケア産業400社近くの会員（2023年11月1日現在：384社）が参加していること、行政・学会・諸団体と連携を取り、医療ITの推進、標準化を進めていることを説明しました。



組織およびその運営体制がしっかりしていることがJAHISの強みであると考えておりますので、JAHIS全体および標準化推進部会の組織構成についても紹介しました。



続いて、医療情報に関連する標準類の制定はJAHISの主要なミッションのひとつであることを強調した上で、これまでに制定した「JAHIS標準」および「JAHIS技術文書」の一覧がJAHISトップページ（<https://www.jahis.jp/>）右側の「制定済標準類」バナーから参照でき、さらにそこからJAHIS標準類文書および関連資料等がダウンロードできることを説明しました。



また、上記バナー真下の「標準類全体図オーバービューチャート」バナーからは、医療情報に関する主な標準類の関係を図で表した「医療情報システムにおける標準類オーバービューチャート」を入手いただけることを紹介しました。本チャートはPDFファイル形式でご参照いただくことを想定しており、各標準類名のところに、それぞれ関連するサイトへのリンクが貼ってあることを説明しました。なお、HELICS協議会のページ（http://helics.umin.ac.jp/event_20231122pre.html）からダウンロード可能なPDF資料には、リンクの貼ってあるPDF版のオーバービューチャートそのものを入れました。（「標準類オーバービューチャート」については、普及推進委員会 鳥井委員が執筆された会誌71号の記事もご参照ください。）

JAHISが標準類の普及推進活動の一環として開催しているセミナーについてもご紹介させていただきました。今回は、2023年10月19日に開催された「MDS/SDS書き方セミナー」と2024年2月2日に開催予定の「医療情報標準化セミナー」について紹介しました。

さらに、国際標準化活動への参画について、JAHISでは、ISO/TC215、HL7、DICOM、IHE等の国際標準関連団体にエキスパートを派遣し動向を把握すると共に、日本および業界としての意見を国際標準に反映する活動も行っており、それらの活動をまとめた「国際標準化総覧」が、JAHISホームページから入手可能であることを説明しました。

最後に、「国際標準化総覧」に記載されている「標準化の意義」の文章をそのまま引用させていただき、JAHISはこれからも行政や関連団体等の皆様と連携し医療DXに向けた標準化の推進に取り組む所存であることを述べて締めとさせていただきました。



最後に

標準化は一個人の努力だけで達成できるものでもなく、また一企業の活動だけで作られるものでもありません。世にある標準といわれるものの多くは、それが唯一無二の実現方法ではなく、数ある候補の中からその時点で関係者の議論によって選ばれたものである場合が大半です。即ち標準はコンセンサスの成果であり、その時点でのベストプラクティスということができます。また、標準化の範囲もいくつかあり、世界標準に始まって、国内標準、業界標準などが挙げられますが、世界標準、国内標準のいずれにしてもまず、関係者間でコンセンサスを得るためには、多くの企業が集まる工業会等が中心になって進めていくことが重要です。その意味においてJAHISの持つ役割は大きなものといえます。

JAHIS 国際標準化総覧「2.1 標準化の意義」より引用

今回、標準化推進部会担当の運営幹事（兼）国内標準化委員会委員長である筆者が、JAHISにおける標準化への取り組みについて、組織体制も含めて紹介させていただきました。健康・医療・介護分野におけるDX推進の機運が高まる中、医療情報関連の標準化推進を担うJAHISへの期待はさらに高まるものと思われます。各部門・委員会・WG/TF等にご参加いただいている関係各位のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、今後とも、引き続きよろしくお願い申し上げます。